



I-OWA マンスリー・セミナー講演より

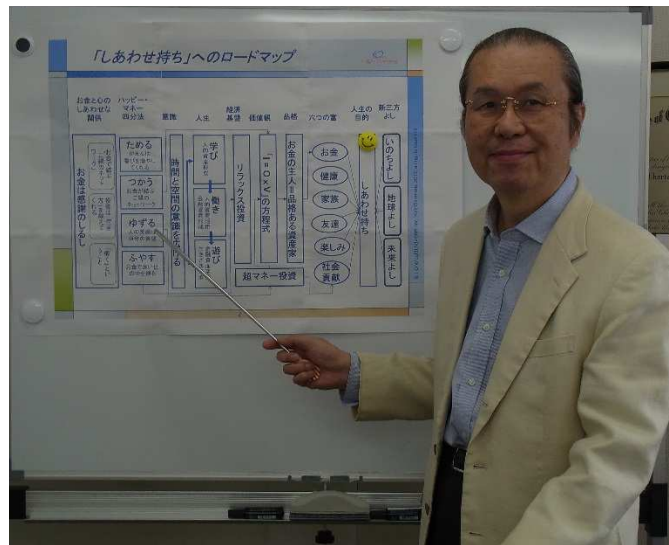
「I-OWA 投資教育の体系:しあわせ持ちへのロードマップ」

講演:岡本 和久、レポーター:川元 由喜子

I-OWA ではこれまで色々なコンセプトを挙げてお金の話をしていますが、スタートになっているのは、「お金は感謝のしるしである」ということです。お金が大事なものは、欲しいものと交換できるから。欲しいものが手に入ると嬉しい。そのことに感謝して、働いて稼いだ大事なお金を渡す。だから感謝のしるしなのです。

投資は「生き方」を教えてください。ずっと将来の大きな喜びのために今、我慢することが投資。今と将来の間に横たわる、価値ある時間をどう使うか。それはどう生きるかにそのままつながっていきます。

お金を得るためには、働かないといけません。「はたらく」ということは「はた」を「らく」にすること。周りを楽にしてあげるから、皆に感謝されてそのしるしとしてお金が返って来ます。だから楽(らく)して儲けようとしても、自分が楽するのだから、お金を払う側になってしまう。ただ、楽(たの)しく儲けることはできますね。それは、他人の喜びが自分の喜びにつながっているということ。人の喜びが、心の底から自分の喜びと感じられるように自分の品格を磨く、ということじゃないかと思えます。



この考え方を、「ハッピー・マネー®四分法」では、つかう・ためる・ふやす・ゆずる、の四つに分けて説きます。ここで気づくのは、今の自分だけではなく、少し先・ずっと先の自分に、そして自分だけではなくて周りの人たち、さらに世の中全体に、幅広く意識が拡大していくということ。つまりお金について学ぶことによって、意識の中の時間軸と空間軸が、だんだん広がっていくということです。我々、とかく今の自分のことばかり考えがちですが、幅広い将来を見据えた行動、世の中全体を



長期投資仲間通信「インベストライフ」

良くしていく意識というのが、今必要とされているんじゃないでしょうか。

人生だいたい百年。これを三つに分けて、最初の三分の一は学びの時代です。この間は、人のお世話になりながら人的資産を形成し、次の働きの時代に入ったら、それを活用して金融資産を形成していきます。働くということは、人的資産を金融資産に変換する作業であると言えます。最後は金融資産を活用しながら「生きざま」を形成し、それが次の世代の人的資産の形成につながっていく、というサイクルになっているのです。

実際にお金と付き合っていく方法が「リラックス投資」です。一番大事なものは、投機と投資と資産運用、この三つの違いをはっきり理解すること。中でも資産運用というのは、人生を通じて行うもので、できるだけ安定的に、リスクを管理された形で、目的とされた金額まで資産を殖やそうとすることです。その目的とは「購買力の維持プラス・アルファ」と岡本さんは定義します。

また、会社の仕組みを理解することも大切です。それは、債券や株式が持つ価値を理解することでもあります。あとは、時間を味方につけること。わずかなリターンの差が、複利の効果で、長期では非常に大きなリターンの差になるのです。そして実際の資産運用に際しては、A(アロケーション)、R(リスク)、C(コスト)をコントロールしていきます。

講演ではこの後も、資産運用のプロセスについて、長期投資の原点と購買力を維持する一番単純なポートフォリオ、お金のリターンを超える超マネー投資、しあわせの六角形(六つの富)、内面の豊かさをもたらす「品格」について、そして長く運用を続けるための知識と「アジア的感性」、等々、本当に盛りだくさんのお話が続きました。